

校（園）長名 福井 みどり

学 校 目 標	○じょうぶな体をつくる子 ○おたがいを大切にできる子 ○すすんで学ぶ子 ○人のためにはたらける子
目指す学校像	子供が主役の学校
目指す子供像	<p>一人ひとりがリーダー（自分・他者にとって）</p> <p>○じょうぶな体をつくる子→運動が好きな子 健康のため自己管理ができる子 耐性の力が身に付いた子</p> <p>○おたがいを大切にできる子→安心・安全な生活の知識をもち、規範意識の高い子 あいさつができる子 自己肯定感をもち、自他を大切にし、おもいやりある行動がとれる勇気のある子。</p> <p>○すすんで学ぶ子→「感じ・考え・行動する」 基礎・基本や学び方を身に付けている子 自ら課題を見付け取り組み、最後までやり遂げる子</p> <p>○人のためにはたらける子→「おもてなし」の心をもって、仲間や地域のために自己の能力を発揮する子 リーダーシップとフォロアーシップをもつ子</p>
目指す教師像	<p>教職員の基本姿勢 「子供が主役の学校」</p> <p>○保護者と共に、児童の成長を喜び合う。明るさ温かさを根底にしながら、指導すべき点は明確に伝わるよう、身に付くよう根気よく指導する。（体罰・暴言はあってはならない。）</p> <p>○子供の思いを受け止め、良いことと悪いこととを明確に教える。勇気づける指導を進める。</p> <p>○特別支援教育への理解を進め、一人一人の良さを伸ばし、考える・分かる・できる喜びのある授業・教育活動を追求し、日々研究・研修に努める。</p> <p>○保護者・地域と温かい関係を築き、共によりよい学習環境・居場所を創造する。</p> <p>○いじめを絶対に許さず、偏見や差別をなくす人権尊重教育の徹底に努める。（呼名・言葉遣い） ○教師自身が児童の手本となる。率先垂範 凡事徹底 明るく温かく笑顔</p>

項目	取組の視点	取組目標	成果指標
各教科等指導等	確かな学力を育てるための分かりやすい授業の実施等	<p>◎教員の授業力向上 主体的、対話的、深い学びに向けた授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き国語科と英語活動英語科の研究を重点に行う。コミュニケーションを図る素地を育成し、自らの考えを発信できるよう言語能力の向上を目指す。 ・年間 2 回以上の授業観察 ・校内での授業交流各自 1 回以上 ・区の研究会への参加 100% ・専門性を磨き、授業研究の発信を行う。 ・教師道場・区授業力向上研修など、積極的に参加させる。 <p>○特別な教科道德の充実</p> <p>○学習指導要領を踏まえた、カリキュラムマネジメントの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを明確にした授業の充実。児童の授業への満足度 85%以上。 ・読み解く力、表現する力の向上。学びの基本姿勢が育つ。 ・全学級で対話、話し合い、スピーチ活動を行い、自ら表現する力が育つ ・全教員が年間 1 回の授業公開を行うことにより、授業改善が図られる。 ・指導計画、評価規準の修正 ・年間指導計画の修正
	特別な支援を必要とする子	<p>○校内特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の特別支援委員会を中心に個々の児童に 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育への理解が進む。児童の安心感、集

	<p>供に対しての、組織的な支援等</p>	<p>合わせた支援指導計画を作成し、合理的な配慮のもと体制を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週の生活指導夕会等での全職員への情報共有を行う。校内研修を実施し、配慮児童への理解と、指導力の向上、ユニバーサルデザインの理解と環境づくりを目指す。 <p>○特別支援教室拠点校として、在籍校との連携を進め、安定した運営を進める。(支援の充実、環境づくり、システムづくり)</p>	<p>中度を上げる環境づくりが進む。学級が落ち着き、学級への帰属感が高まる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点校として体制が整う。在籍校との連携が進み、支援体制への満足度があがる。
	<p>社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育等</p>	<p>○自己肯定感を高め、他の喜びを自分の喜びとできる子の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通した、縦割り班活動他異年齢での活動 委員会・係活動・当番活動・登校班等の取組 ・幼保小中一貫教育を目指した、連携事業実施。(教科での連携を進める。) ・豊かなかかわりの中で体験的な学習を進め、将来の夢をもち、職業への期待を育る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の自己肯定感が高まる。アイチェックでのポイントが上がる。 ・組織的・計画的に小1プロブレムや中1ギャップへの対応が進む。 ・出前授業や仕事調べなどを通して、自分の将来について意欲的に考え、夢や見通しをもつことができる。
<p>生活指導等</p>	<p>問題行動の予防や解決に向けた組織的な取組等</p>	<p>○いじめ防止方針案にのっとり、いじめの早期発見早期解決に取り組む、いじめ0をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間3回以上のいじめ防止の授業実施。(10月にいじめ防止公開授業実施。) ・いじめ不登校対応委員会を中心に、教職員全員での関わり、毎週の生活指導夕会での全職員への情報共有をもとに、即時対応する。(理由の判明しない欠席1日で連絡対応) 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの早期発見早期解決が進む。不登校の防止が進み、欠席配慮児童が改善される。 ・児童の学級・学校への満足度が上がる。 ・児童の意欲の向上・自己肯定感の向上を目指す。
	<p>基本的な生活・社会習慣、人間関係作りのための心の教育等</p>	<p>○「時間」「礼儀」「責任」を合い言葉に、基本を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期ノーチャイム、委員会・係活動・当番活動・登校班の取組 ・生活指導部を中心とした「あいさつ運動」の実施 毎朝のあいさつ当番、年間分担しての登校班でのあいさつ当番を進める。 ・身に付けるべき生活のルールを全教職員で確認し、段階的に指導する。(さんてらスタンダード 授業の始めと終わり、発表の仕方、さんくん付け、呼名等) ・児童のよりよい関係づくりを目指し、相互に認め合い励まし合う活動を計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・後期はノーチャイムで全児童が行動できる。 ・活動の振り返りを行い、各自が成長を実感する。(振り返りカード) ・自分からあいさつができる児童が8割以上になる。 ・教職員の指導が徹底し、児童の規範意識が育つ。 ・アイチェックで学級への帰属感や、自己有用感が高まる。
	<p>安全を確保するための取組等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフティ教室 不審者対応、薬物乱用防止などの学習 ・インターネット・ソーシャルメディア等のかかわり方の学習を進め、さんてらSNSルールを作成する。 ・避難訓練(様々な想定場面での訓練) ・安全指導日の指導の充実 保護者と連携した登下校訓練。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・防災・防犯教育を進め、児童に自分で自分を守る意識や実践力が育つ。 ・教員の緊急時の対応力が向上する。

様式 2

		<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギー対応研修と教員のシミュレーション訓練年3回 	
	<p>子供や保護者からの意見や要望への対応等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担任や副担任が、保護者・児童とつながり、相談しやすい雰囲気作りをしていく。担任一人ではなく、チームで動く。相談された内容を情報共有し、その後の対応策を即時に確認し実施する。(いじめ防止対策委員会他) ・家庭訪問や個人面談・保護者会など目的に応じて、意見要望を聞き取るような場面設定を行う。 ・SCへの相談など奨励する。SCの4~6年生の全員面接を実施する。(グループ給食実施) ・行事・授業アンケートは随時。学校の保護者アンケートを12月に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が開かれているとのアンケート回答が9割以上となる。 ・学校の対応に理解が進む。情報が入りやすくなる。教師の折衝力や対応力が向上する。 ・SC活用の機会が増え、児童への支援が強化される。 ・児童保護者の意見要望を取り入れた、教育活動が進む。
<p>学校の管理運営</p>	<p>経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主幹主任教諭・事務主査による、校務改善と教育活動の活性化を進める。(校務支援部 スクラップ&ビルド ファイリングの整備) ・経営会議・企画会を充実させ、計画的で組織的な提案をさせる。実施後は即時見直しを次年度に向けて行う。 ・週案をもとに、計画的な教育活動を進める。 ・ジョブローテーションによる、分掌組織の活性化 各自の仕事の効率化を進め、守備範囲を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的・組織的な対応が進み、校務の見直しから、教育活動の取組達成度が上がる。 ・チームでの動きが常となり、教育活動が豊かになり改善が進む。学校への満足度が上がる。
	<p>子供の実態に合わせた教育目標設定及び評価等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を明確にし、学校の教育目標の達成に向け児童像を決める。学級目標や、教員の自己申告に反映させる。 ・指導と評価の一体化を図り、評価規準を明確にし、児童や保護者に分かりやすい提示を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルでの学校運営が進み、課題や改善点が明確になる。 ・到達目標が明確になり、取組への意欲や関心があります。
	<p>教育環境・設備等の整備状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用研修を行う。 ・学校の環境整備・美化を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTによる授業改善が進み、活用度が上がる。 ・環境整備・美化が進む。
<p>家庭・地域連携</p>	<p>教育方針や日常の教育活動の様子などを伝える取組等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の学校便り・学年便り等での発信。学級便りの推進 ・HPの充実、毎週更新。 ・情報メールの活用随時 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のアンケートで情報発信のポイントが上がる。HPの閲覧数が上がる。
	<p>保護者や地域の理解や協力を得た教育活動の推進等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行事・授業への参加を進める。 ・学校支援ボランティアを立ち上げ、児童への支援の体制を強化する。(読み聞かせ・図書整備・授業支援・検定) ・ゲストに迎え、地域を教材とするなど保護者・地域とのつながりを深める授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校への協力者が増える。学校アンケートで、学校へ肯定的意見が増える。